

○ 第4回農業者年金オンラインセミナー質疑応答集

項番	質問	回答
1	現在、若手農業者に対して戸別訪問に取り組んでいますが、セールスポイントを短時間でお伝えできるトーク術がありましたら、例示をお願いします。	相手の方が農業者年金の社会保険料控除に魅力を感じているのか、あるいは終身年金であることに魅力を感じているのかなど、その方がどこにポイントを置いているのかをしっかりと聞きとった上で、そのポイントを踏まえたトークをすることがいいのではないかと考えます。 また、NISAやiDeCoなど様々な商品がある中で、農業者年金についても知っていただいて、その方の選択肢に加えてもらうというスタンスで推進することも良いと思います。
2	保険料総額と年金受給総額の損益分岐点は何歳になるか教えて頂きたいです。	加入の年齢・期間、保険料の額や受給を開始する年齢等により、人それぞれ異なりますので一概には示せません。 農業者年金基金のホームページに年金シミュレーターが用意されており、条件を入力すると年金額のシミュレーションができるようになっていますので、こちらを活用いただければ、保険料総額と年金額が分かりますので、損益分岐点が算出できるかと思えます。 また、第3回オンラインセミナーの中でもシミュレーションを行っておりますので、アーカイブ配信をご覧くださいませ。 ●年金シミュレーター ⇒ https://www.nounen.go.jp/nounen/nenkingaku/web.html ●第3回オンラインセミナーアーカイブ https://youtu.be/3qWamRocKKk
3	社会保険料控除は払込した保険料全額が対象となる理解でよろしいでしょうか。	ご理解のとおりです。 保険料については、その年に支払った同一生計である家族分のものを含めた全額が経営主の所得から控除でき、さらに翌年の保険料を前納納付した場合、その年の毎月の保険料と併せて翌年の確定申告で計上することが可能です。これらを併用すれば、非常に大きな所得控除が可能となり、その分税金負担を軽減することができます。 一方、iDeCoの場合は、支払った保険料（掛金）は「小規模企業共済等掛金控除」の対象で、加入者本人の掛金のみ所得控除になります。
4	加入時点で40歳を過ぎている場合、65歳以降で受け取る年金額はいくらくらいになるのでしょうか。	農業者年金基金のホームページに年金シミュレーターが用意されており、条件を入力すると年金額のシミュレーションができるようになっていますので、そちらを活用いただきご確認いただければ幸いです。 ●年金シミュレーター ⇒ https://www.nounen.go.jp/nounen/nenkingaku/web.html
5	加入推進の際、親元就農者と独立就農者の違いにより、声のかけ方を変えるなどの工夫はされていますか。	年金は個人で保険料をかけて個人が受給するという性質のため、その当事者がどう考えるかが重要だと考えています。そのため、親元就農であるか独立就農であるかはあまり気にする必要はないと思います。
6	旧制度への不信感を持つ方に対し、どんな切り口で推進されていますか。	現行の制度になり旧制度とは仕組みが変わっていますし、これから加入する方々にとっては全く関係のない話だと思います。そのため、旧制度の不信感を持つ方にも現行制度のポイントを分かりやすくお伝えし、良い制度であることを知ってもらうということを意識しています。
7	国民年金の付加年金について、加入推進の中で触れていますか。	農業者年金に加入するためには、国民年金の付加年金への加入が義務付けられておりますので、必ず触れています。 国民年金の付加年金がお得な制度になっているという点についても、第3回オンラインセミナーの中で解説しておりますので、アーカイブ配信をご覧くださいませ。 ●第3回オンラインセミナーアーカイブ https://youtu.be/3qWamRocKKk
8	1年後に認定就農者を目指して先進農家の元で研修を受けている農業研修中の者（就農準備資金を受給中）は加入できますか。	加入できます。 農業者年金の通常加入の要件は次の3つとなっています。 ① 年間60日以上農業従事者であること。 ② 年齢が20歳～65歳未満の者であること。 ③ 国民年金第1号被保険者（保険料納付免除者を除く）※ただし、60歳以上は国民年金の任意加入被保険者であること。 旧制度の農業者年金は、農地の権利名義等が必要でしたが、新制度の農業者年金は当該要件はございません。農業上の要件は、「年間60日以上農業従事」のみとなっておりますので、ご質問のような場合であっても、上記の加入要件を満たしていれば、加入することが可能です。
9	NISAとの区別をどのように考えたら良いでしょうか。 NISA一択といった知り合いが多く、どのようにお声掛けすれば良いか教えて欲しいです。	これからの長生きの時代における老後の資産形成には、一生涯受給が可能な終身年金を1つ用意しておくことが有効で、かつ生活に最低限必要な生活費は資産を目減りさせることなく、安定した運用の元、資産を確保することが重要だと考えています。 さらに、生活費に充てるということを考えたとき、定期的に決まったお金が振り込まれるということも重要なポイントだと思います。 このように、目的に応じた商品を選択することが重要であり、老後の資産形成が目的ということであれば、年金をベースにし、ゆとり資金でNISAなどを含めた投資をお勧めしたいと思いますが、人それぞれ考え方がございますので、最終的にはご本人の選択を尊重することが大前提だと考えています。 なお、農業者年金は保険料の全額が社会保険料控除の対象となりますので、税の軽減策としてご活用いただける点も重要なポイントであると思います。

○ 第4回農業者年金オンラインセミナー質疑応答集

項番	質問	回答
10	農業者年金は、債券運用という認識で良いでしょうか。	債券運用のみではございません。 リスクの少ない国内債券を中心に、株式等を一定割合組み合わせた分散投資をすることで、一定の利回りを確保するよう運用しています。
11	【アンケートに寄せられた質問】 国民年金保険料+付加保険料+農業者年金保険料（設定金額は、2万円から6.7万円まで自由選択）での負担というこの理解で宜しいのでしょうか。	ご理解のとおりです。
12	【アンケートに寄せられた質問】 運用実績がマイナスのときにも加入者の実績には影響しないような仕組みになっている（それがイデコと違う）との説明がありましたが、それはどういう仕組みによるものですか。	農業者年金制度には、資産運用のマイナスを補う次の2つの付利準備金という仕組みがあります。 ① 65歳以上の年金裁定時に付利累計額がマイナスとなる方のマイナス相当額を補うもの。 ② 各年度の付利原資（運用成績）がマイナスとなった場合に補てんを行うもの。 ご質問の仕組みは②によるものです。 付利準備金は、一定以上の運用益が確保された際に、その一部を留保する方法により積み立てられています。